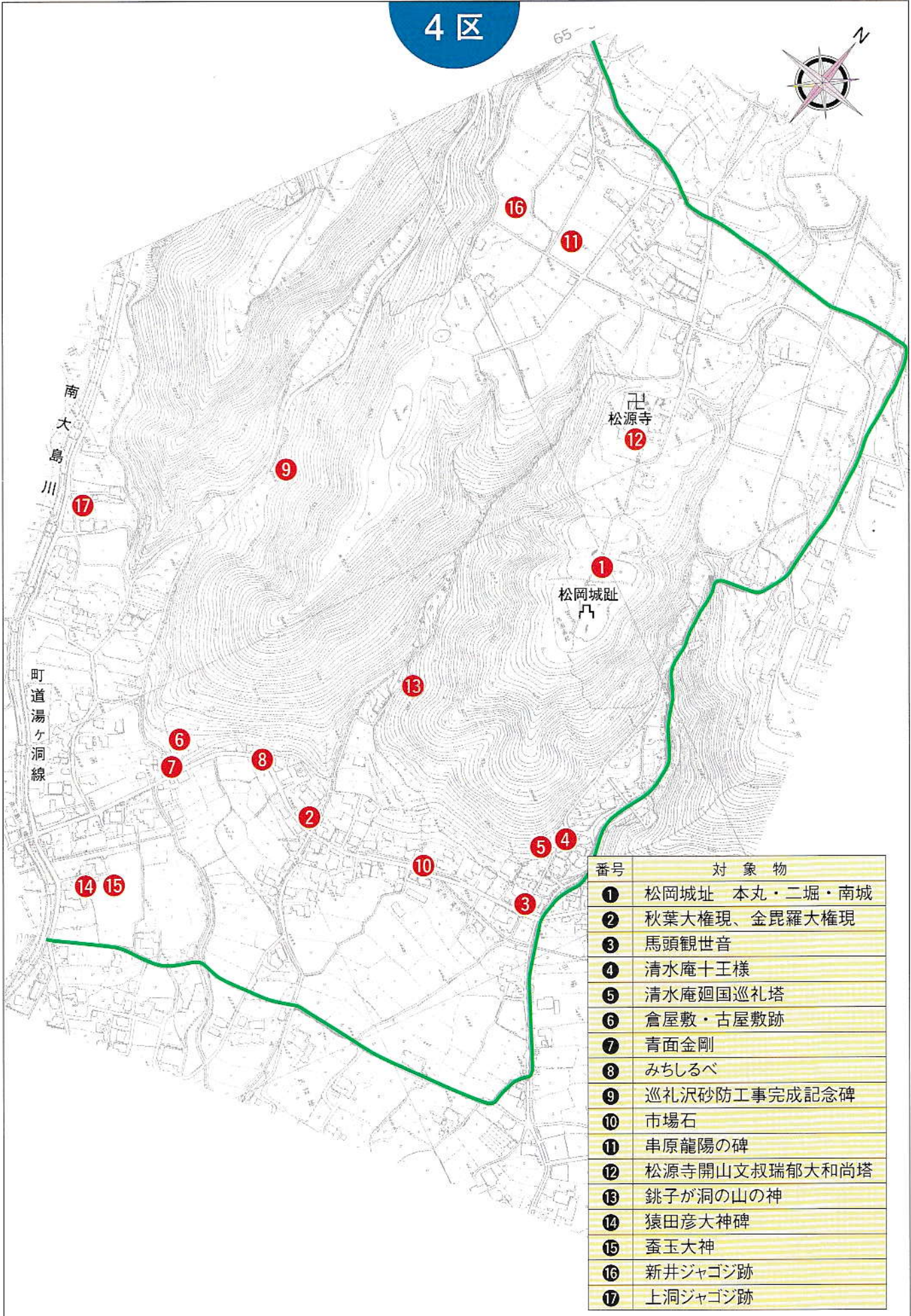


4区



番号	対象物
①	松岡城址 本丸・二堀・南城
②	秋葉大権現、金毘羅大権現
③	馬頭観世音
④	清水庵十王様
⑤	清水庵廻国巡礼塔
⑥	倉屋敷・古屋敷跡
⑦	青面金剛
⑧	みちしるべ
⑨	巡礼沢砂防工事完成記念碑
⑩	市場石
⑪	串原龍陽の碑
⑫	松源寺開山文叔瑞郁大和尚塔
⑬	銚子が洞の山の神
⑭	猿田彦大神碑
⑮	蚕玉大神
⑯	新井ジャゴジ跡
⑰	上洞ジャゴジ跡

① 松岡城址

まつ おか じょう し

昭和17年(1942)1月22日石碑建立
 【所在地】松岡城址本丸先端

史跡松岡城址として、昭和17年(1942)長野県の指定をうける。

昭和26年(1951)、現行の文化財保護法が施行された時点で申請がなされず、現在にいたっている。

昭和62年(1987)10月12日高森町文化財に指定。



松岡城址

■松岡氏の初祖

前九年の役(1057)で陸奥(青森県)の豪族であった安部頼時は源頼義に敗れ、その子貞任も長子千代童子と共に、康平5年(1062)捕えられて殺され、阿部氏の乱は平定した。

その時、貞任の二男仙千代は乳母に抱かれて逃れ、下野に潜み信濃大町の仁科氏を頼るなどして、平安期に伊那郡市田郷の牛牧に漂着し、後に郷民に押されて地頭となり、松岡氏を名乗って吉野朝(1333~1392)の頃より勢力を振るい、戦国時代には武田80騎の将として、竜西では小笠原氏、下条氏に次ぐ雄となった。

安土桃山期(1573~1599)の半ば松本城主小笠原貞慶の誘いに乗り、高遠に出兵するが戦わず帰る。このことを家臣の密告によって徳川方に押さえられ、対決の結果申し開きができず、500余年続いた松岡氏も、天正16年(1588)改易となり家名断絶し滅亡となった。

■松岡城の築城

地頭となった仙千代は松岡貞則と名乗り、平安末頃上市田の一本杉近くの、現在の「古城」に居館を築いた。

松岡城の築城は概ね元徳元年(1330)の伊予守貞景の頃と推定される。



二の丸



二の堀跡

■二の丸

【所在地】松岡城址

本丸の西には、東西約86~104メートル南北約21~30メートル、約25アールほぼ長方形の広場が二の丸である。三の丸とは土橋を挟んで二の堀がある。

堀の長さは北部約63メートル、南部約40メートルで、最も深い所で約40メートル、幅は約20メートルに及ぶところがある。



松岡南城跡

松岡南城跡遠景



■松岡城址・南城跡

【所在地】本城の南方

本城の約十分の一の広さで支城としては小さいが、本、二の丸、三の丸がある。

② 秋葉山大権現・金毘羅大権現 [四区]
〔所在地〕四区南沢



■金毘羅大権現
海難、水難の神
本宮 金毘羅神社(香川県琴平町)
建立 天保3年(1832)

秋葉山大権現
金毘羅大権現

■秋葉山大権現

防火の神

本宮 秋葉神社(静岡県春野町)

建立 文化4年(1807)卯歳3月

秋葉塔について多く見受けられるのは金毘羅塔である。同一碑石に秋葉山、金毘羅両神名が刻まれていたり或いは二碑が並立している場合が多い。金毘羅信仰は讃岐国象頭山にある金毘羅権現から発生した。金毘羅権現は仏教の守護神十二神将の一つである宮毘羅と、琴平に祀られていた金刀比羅(祭神大物主神)とが結びつけられた本地垂迹の名称である。金毘羅権現は海上の守護神として、航海、漁業などに従事する人々の信仰が特に厚かったが、海上ばかりでなく広く一般に交通安全の神として、旅立ちするものは金毘羅様に道中安全を祈願するようになった。



遠景

③ 馬頭観世音 [四区]

天保5年(1834)建立

〔所在地〕下市田四区 間ヶ沢

庶民信仰のなかで、一番多いのが馬頭観世音である。

馬頭観世音は恐ろしい怒りの姿で、馬を頭に頂くのは、インドの転輪王が馬に跨って四方を駆け巡り、一切の悪魔を打降するのを現しているという。

特に畜生類を救い導くので、この観音を信仰して馬の安全を祈り、馬が死んだときこの石仏を立てて供養するが、死んだ馬のためではなく観世音の感謝と供養である。



馬頭観世音

4 清水庵(観音堂)と十王様

〔四区〕

(建立時期 不明)
〔所在地〕下市田四区間ヶ沢



清水庵

この観音堂(清水庵)は、千手観音を安置して庶民信仰の霊場として多くの信者を得ていた。

堂の創立の年代は不明であるが、伊那西国三十三観音のうち二十六番礼所として、多くの参拝者が訪れていた。

現在のお堂は松源寺の管理となっており大変老朽化してきており、中の観音菩薩像は、松源寺に移され安置されている。



十王様

十王とは冥府(冥土)にあつて、死者の罪を裁断する十人の王である。

人が死んで冥府に行くと初七日には秦広王、二七日には初江王、三七日には宗帝王、四七日には五官王、五七日には閻魔王、六七日には変成王、七七日には泰山王、百ケ日には平等王、一周忌には都市王、三回忌には五道転輪王の裁断を受け、生前の罪業の軽重が決定され、それにより各人の趣くべき場所が定められる。

※十王様については一区の十王堂、三区の安養寺の十王様を参照する。



千手観音

5 清水庵廻国巡礼塔

〔四区〕

元禄11年(1698)2月16日建立 〔所在地〕下市田四区 間ヶ沢

観音は現世利益の願いに答えてくれると広く信仰され、三十三ヶ所を巡拝祈願してその功德を得ることから、西国、坂東、秩父の霊場巡拝が盛んに行われ、また是を近い伊那に移し、伊那西国、坂東、秩父巡拝が行われ、その巡拝が無事終わって帰ると記念に廻国巡礼塔を建てた。但し秩父は三十四ヶ所。



廻国巡礼塔

⑥ 倉屋敷・古屋敷跡

〔四区〕

慶応元年(1865)建立

〔所在地〕洞 木村喜久雄氏宅前

山側の山中へ50m上に東西35m、南北25mの平地があり、松岡城に付属する穀物倉庫や家臣の屋敷があった。松岡時代とは関係はないが、この山中の屋敷跡に「富士山」と揮毫された高さ165cmの立派な碑がある。この碑の建立は慶応元年乙丑吉日(1865)となっており、これは近所の講中の人びとによる富士浅間信仰がかつて盛んであり、碑の裏側には羽生官兵衛を初め31名の名前が刻まれている。

時代は江戸末期から明治初期頃と考えられ、当時は富士山へ代参があったものと考えられるが、現在生存中の人の中にも知る人もなく、当時の記録も今のところ見つかっていない。



倉屋敷の石碑



古屋敷跡

⑦ 青面金剛

〔四区〕

元禄11年(1698)建立

〔所在地〕洞 木村喜久雄氏宅前



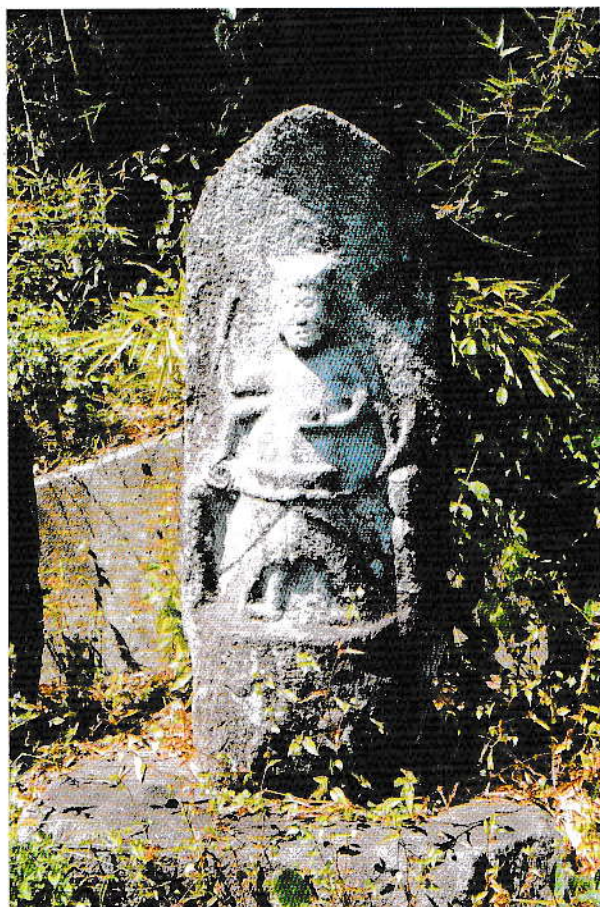
青面金剛の遠景

お庚申様の本体は青面金剛とされている。物凄い怒りの面相をして、右手に矛、剣、矢を持ち、左手に宝輪、弓のほかには赤ん坊を吊り下げているものがある。

両足で天邪鬼を踏みつけ、その下のほうに三猿(見ざる、聞かざる、言わざる)がうずくまっている。左右の地上には鶏の雌、雄を配してあるものもある。

また道路と結び付き悪鬼が村外から入り込まないように青面金剛の威力に頼った。村を邪悪から守ろうとする信仰である。

※二区の庚申供養碑を参照する。



青面金剛

8 みちしるべ

〔四区〕

建立時期 不明
 〔所在地〕 四区生活センターの南

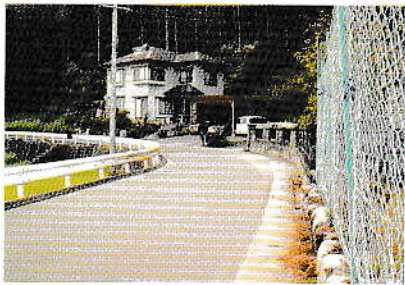


みちしるべ

四区生活センターの南に「左ぜんかうじ道」とのみちしるべがある。これは長野の善光寺に対するみちしるべとなっている。この道はこの地点から、新井川を渡り山側に入り、清水庵の下を通り間ヶ沢川を越えて、萩山神社の境内に至る。それ以北については唐沢原へのぼって上段地帯へむかう線と、清東を経て下段地帯を通る線が考えられるが、今では定かでない。



四区生活センターの南



9 巡礼沢砂防工事完成記念碑

〔四区〕



記念碑

県直営および補助工事荒廢地復旧工事
 着工昭和7年（1932）、完工昭和14年（1939）
 巡礼沢は黒沢川の水元で座頭なぎとともに崩落など
 して下市田区民を悩ましてきた。
 巡礼沢（元牛牧区有地）昭和13年（1938）下市
 田区へ所有権移転。大正3年（1914）頃から管理
 のために青年団に委嘱して草刈りを行う。
 昭和3年（1928）下市田の管理に入
 ることになった。



記念碑遠景



記念碑遠景

10 市場石

〔四区〕

〔所在地〕市場

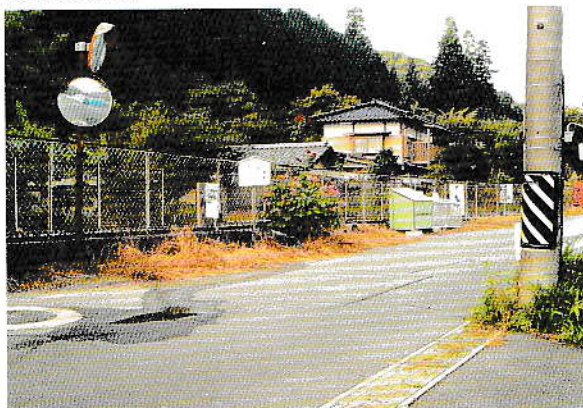
清水伸彦氏の側



市場石

座光寺に古市場があり、下市田にも市場地籍に市場があった。
これらの市場は当時の盛んな頃、当地方の産物を持ち寄って売買したところである。いずれも東山道の道筋にあたりと言われ、交通量も多かったと思われる。

市場石の遠景



11 串原重松頌徳碑

〔四区〕

昭和11年(1936)丙子秋

〔所在地〕新井 串原実氏の西

串原 龍陽りゅうやうは本名重松、串原源三郎の長男、慶応3年(1863)10月12日現下市田に生まれる。明治15年市田小学校高等科卒業、同25年4月小学校教員免許を受け、以来飯島、飯田、下市田、東京大久保の各小学校へ奉職。明治25年6月中等教員養成所地歴科を卒業。同年長野県飯田高等女学校に勤務、地歴を担当。その後、岡山県矢掛中学校、新潟県立村松高等女学校に勤務。大正13年5月同校退職。功により正七位。

飯田高等女学校時代の同僚の木下蘇雲に絵画の指導を受け、安藤耕斎、池野晃雲、木下小麟、矢高涛舟、木下正州等の交友あり。弓道、囲碁、和歌をよくし、昭和27年4月8日、86歳で没した。



串原重松頌徳碑



頌徳碑の遠景

12 雲龍山 松源寺 〔四区〕

開山文叔瑞郁大和尚塔

臨濟宗妙心寺、創建1513年（牛牧寺山）、再興1678年（現在地）、

松岡城主 明甫正哲居士、開山は文叔瑞郁禪師

文叔瑞郁禪師

松岡城主第十二代貞正の弟として生まれ、僧として厳格な修業を重ね、四十二

才にて印可証明を得、郷里の松源寺、松尾の龍門寺、引左町の龍潭寺など開山し、四十九才にして勅命により京都の妙心寺の二十四代住持となる。六十九才に

て遷化される。

松源寺と龍潭寺を開山した法縁によって井伊直政の父直親の少年時代に松源寺（当時は牛牧に在る）に預ることになる。



松源寺の遠景



開山文叔瑞郁大和尚塔

13 銚子ヶ洞の山の神 〔四区〕

〔所在地〕 下市田4268の2 区有地

下市田四区市場地区松岡城址南沢登り口、ここに大山祇神をおおやまのみかみご神体とする山の神の祠がある。

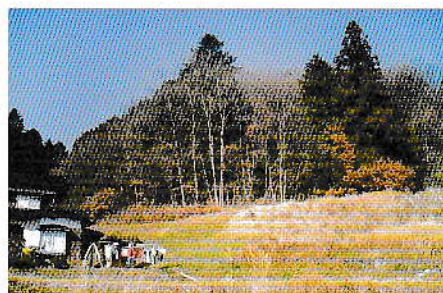
これは嘉永4年（1851）に銚子ヶ洞水系の四区市場、五区武陵地、中谷の購中の皆さんが建立以来、春秋彼岸の中日に銚子ヶ洞の山道作りを行い、山の神の祭りも執り行ってきた。

ところが近年道路改良が進み、山道の利用も少なくなつての古道が見捨てられ、昭和の高度成長期以降恒例となつていた山道作りが行われず、従つて山の神の祭典も中止され、最近はその山の神の祠がいたみ、境内が荒れ果てて今日に至つていた。

ところで平成十八年（2006）5月12日、有志により祠の更新と境内の整備を実施し、平沢神官によるお祓いを行い、日本古来からの庶民信仰を大事にし次世へ継承を誓ひ合った。



銚子ヶ洞の山の神の祠



山の神の遠景

14 猿田彦大神 〔四区〕

明治24年(1891)5月22日 木村末太郎氏建立
 〔所在地〕下洞 上沼武雄氏のそば



猿田彦碑

国の神の一つ、ニニギノミコト降臨の際、先頭にたつて道案内をし後、伊勢の国五十鈴川上に鎮座したという。容貌は魁偉で鼻長身長七尺余と伝えられる。

日本書紀にはこれは俳優または巷の神とした。中世にいたり庚申の日には、この神を祀りまた道祖神とむすびつけた。

猿田彦大神は神道信者が祀った。
 ※庚申については、五区の青面金剛を参照する。



15 蚕玉大神 〔四区〕

明治36年(1903)9月20日 木村末太郎
 〔所在地〕下洞 上沼武雄氏のそば

伊那谷でも古くから養蚕が行われ、人間の生活を多く支え、お蚕様として大変尊敬され、蚕玉信仰も盛んに行われた。中部、東北地方の養蚕神の祭りは、多くの初午の日を中心として盛んにおこなわれ、現在では養蚕をやめても地域の安全、親睦のためにこの祭りに参加している。



蚕玉様の遠景



蚕玉大神

16 あらい
新井のシャゴジ

四区

下市田には古くから手厚く祀られてきた古神に「三天白、三シャゴジ」があるという。新井シャゴジはその一つである。
今は新井は小島、申原（榎原）同族の氏神となっている。

シャゴジについては、郷土学者はどんな神かわからないが、農業に関する神であることは確かであると語っている。



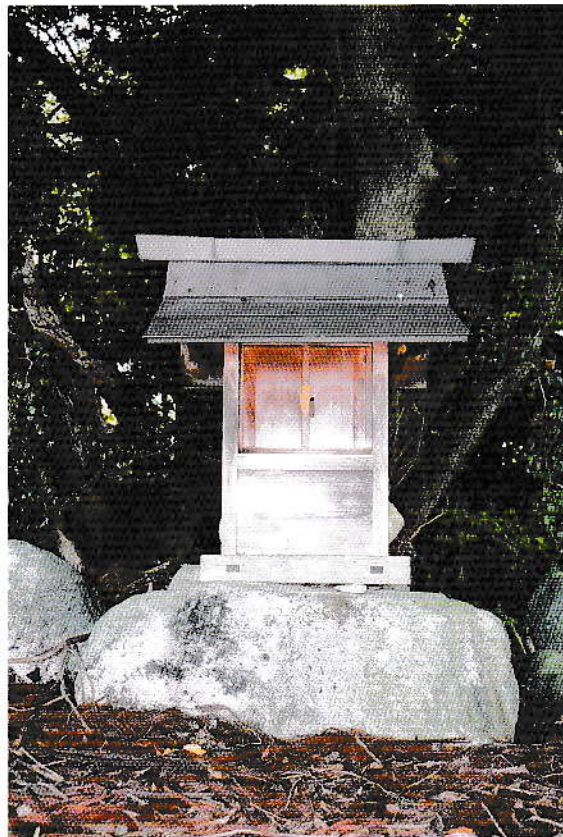
新井シャゴジの跡



新井シャゴジの遠景

17 かんぼら
上洞のシャゴジ

四区



上洞シャゴジの跡

上洞シャゴジは座光寺境にある湯ヶ洞線沿いにある。

ここは、林家一統の氏神となっており、例年四月に氏神祭が行われている。

民俗学者柳田国男氏は、古い神で稲作信仰に関する神であることは確かかもしれないが、その名称から来る意味については、解釈が余りにも多く何を意味するのか、確かなことは理解できないといわれている。

大和政権時代から現在にまで至っているのではないかと語っている。

上洞シャゴジの遠景

